

第2回中部圏広域地方計画有識者会議 意見交換

テーマ 次期中部圏広域地方計画策定にあたっての視点

I 背景

I-1 社会経済情勢の変化

1. 社会全般の変化

- 人口減少・少子高齢化の進行／在留外国人数の増加／デジタル社会の急速な進展／カーボンニュートラルへの対応／東京一極集中の継続／訪日外国人の増加／エネルギー・食料の需給をめぐるリスクの顕在化

2. 生活の変化

- 働き方の変化（テレワークの浸透）／ライフスタイルの変化

3. 産業の変化

- 新興国の成長による国際競争の激化／労働や産業の質の変化（AI、ビッグデータによる高付加価値化、産業構造の変化）

4. 災害リスクの変化

- 南海トラフ地震の切迫／洪水・土砂災害の激甚化・頻発化／インフラの老朽化

I-2 中部圏の特性

1. 中部圏の強み

- 日本のまんなか／充実した交通インフラネットワーク／豊かな自然環境／固有の歴史・文化／経済と食を支える基盤産業／ゆとりある生活環境

2. 中部圏の課題

- 災害リスク／地方の生活環境の維持（地域交通）／若者・女性への訴求力

II 意見交換

II-1 中部の将来像

【中部圏長期ビジョン（R4.2）】（資料2：P.7、参考資料4：P.10～P.14）

1. 基本的な考え方

- 豊かな自然、固有の歴史・文化、ものづくりをはじめとした多様な産業を有する中部圏の各地域が個性を磨き、世界から人材が集まり、すべての人が活躍できるQOLの高い魅力的な地域をつくる。
- 美しい自然を維持しながら、産学官の連携のもと、我が国の社会・経済を支えてきた中部圏の特性を活かし、世界的課題に挑み、新たな産業を育み、持続的に成長する地域をつくる。
- 交通・情報通信ネットワークを拡充し、中部圏内の多様な地域が補完・連携して中部圏が一体となって成長し、首都圏・近畿圏とともに我が国の社会・経済をけん引し、世界の拠点としての機能を果たす。

2. 目指すべき将来像

- QOLの高い魅力的な地域
- 世界的課題に挑み、新たな産業を育み、持続的に成長する地域
- ハード・ソフトのネットワークを拡充し、個性を磨き助け合う

II-2 次期中部圏広域地方計画策定にあたっての視点

【中部圏広域地方計画 現行計画（H28.3）】（資料2：P.4、参考資料2：P.21～P.60）

- 将来像実現に向けた基本方針

方針1：世界最強・最先端のものづくりの進化

方針2：スーパーメガリージョンのセンター、我が国の成長を牽引

方針3：地域の個性と対流による地方創生

方針4：安全・安心で環境と共生した中部圏形成

方針5：人材育成と共助社会の形成

○参考

【国土形成計画（全国計画）中間とりまとめ（R4.7）】（資料1、参考資料1）

- 共通して取り入れるべき課題解決の原理

①民の力を最大限発揮する官民共創

②デジタルの徹底活用

③生活者・事業者の利便の最適化

④分野の垣根を越える（いわゆる横串の発想）

- 重点的に取り組む分野とその方向

・地域生活圏

・スーパーメガリージョンの進化

・令和の産業再配置

【新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画（R4.6）】（参考資料5）

- 新たな官民連携、社会課題解決と経済成長、国民の持続的な幸福

【デジタル田園都市国家構想基本方針（R4.6）】（参考資料6）

- 全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会